

# 環境戦略と指標

## ■ YKK精神

「善の巡環」 他人の利益を図らずして自らの繁栄はない



企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより、社会からその存在価値が認められる。YKK創業者の吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図ることが、お客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できると考えたのです。このような考え方を「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてきました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

## ■ 経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



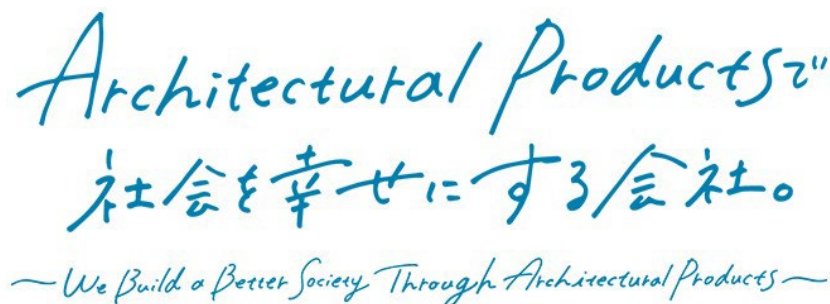
YKKは、更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて、  
7つの分野に新たなQUALITY（質）を追求します。

YKKグループが「善の巡環」の精神に基づく経営理念として掲げるのが「更なるCORPORATE VALUEを求めて」です。私たちはお客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。そのため的手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、これをあらゆる経営活動の基盤としています。

## ■ パーパス

「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」

---



いつの時代も私たちは、建築文化の根幹にあるArt（美しさ）とTechnology（技術力）にこだわり続けながら、  
好奇心と探究心により、価値ある建築パーツ「Architectural Products」を生み出し、  
人と自然、未来をつなぎ、幸せな社会を実現します。

YKK APのパーパスには、私たちの商品やサービスを通して社会に貢献する会社でありたいという想いが込められています。住宅やビルの構成要素である「Architectural Products（建築用工業製品）」で、お客様やお取引先の想いに応え続けること。それによって、お客様やお取引先、そして社会に貢献する会社であり続けること。「YKK AP」という社名に込めた想いを受け継ぎながら、変わりゆく社会の中で必要とされる存在であり続けたいと考えています。

理念について、詳細情報は[こちら](#) →

# 環境戦略と指標

## ■ トップメッセージ

### YKK精神「善の巡環」が原点

### Architectural Productsの進化で社会を幸せにする

当社では、2023年の社長就任時に“2030年のありたい姿”を「世界のリーディングカンパニー」と掲げ、その実現をめざすビジョン「Evolution 2030」を策定しています。

私たちは、YKKグループの企業精神である「善の巡環」すなわち企業は社会と共存し利益を分かち合っており、こそ存続できるという基本思想のもと、YKK AP独自のパーパス「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」を策定しています。この二つの実現の延長線上に、「世界のリーディングカンパニー」があります。売上高、営業利益率ともに業界トップになれば、プライスリーダーになることができます。ひいては持続的成長が可能となり、ステークホルダーに利益が生まれ、社員も安心して働くことができるという、「善の巡環」やパーパスにかなう仕組みができると考えています。

2024年度は、売上高は5,616億円で、4年続けて過去最高を更新したものの、資材価格の高騰や円安などの影響で、営業利益は180億円と前年度を下回りました。

これまでの延長線上で進める「改善」ではなく、「儲かる体質」へと「変革」する必要があると考えており、2025年度からスタートした第7次中期経営計画は、「収益構造の変革」と「技術革新による価値創造」の二軸で進めます。前半の2年間で「儲かる企業」を実現するための体質改善を図り、後半の2年間で、改めてビジョン「Evolution 2030」にチャレンジします。

「収益構造の変革」は、リフォーム・改装分野へのシフトと、断熱性能向上をキーワードに推し進めます。新設住宅着工戸数の減少傾向が続くと見込まれる一方、既存住宅の断熱性能向上の動きは今後も需要が見込まれます。また、今後10年で築35年以上のマンションは大幅に増加し、2030年代半ば以降にピークを迎える見通しです。さらに、政府はGX(グリーン・トランスフォーメーション)実現に向けた基本方針の中で、住宅・建築物における省エネ改修等について、2023年から10年間で約14兆円規模の官民投資を実施するとしています。これらの市場環境や政策動向を踏まえ、住宅のリフォームおよびビルの改装は、今後当社が重点的に取り組むべき事業領域であると認識しています。

窓においては、2022年に断熱等性能等級の最高等級が4から7に引き上げられ、現在、新築住宅は等級5・6へ移行しつつあります。これに伴い、住宅用窓市場では樹脂製などの高断熱窓への移行が加速すると見込まれます。断熱性の観点から、当社は、住宅向けアルミ窓の販売を2027年度で終了する方針を固めました。樹脂窓、木製窓およびアルミと樹脂の複合窓の販売を伸ばし、2028年度には全窓商品の販売金額で首位をめざします。

また、高断熱窓化率を、住宅で100%、ビル用で25%(\*)に引き上げる計画を掲げました。それを実現するためのキーワードは、「技術革新による価値創造」です。国産木材を使用した商品や、ビル用アルミ形材断熱窓の開発は難易度が高いですが、自社の優位性を発揮して取り組んでまいります。カーテンウォールについては、日本よりも断熱性能基準が厳しい欧州の基準に合わせた改装用商品や、断熱性の高い商品の開発・提供にも取り組んでいきます。

新技術を使った商品開発にも取り組んでまいります。現在着手しているのが、ガラスに当たった太陽光で発電する窓の開発です。窓を、エネルギーを生む場所へと転換させる画期的な技術です。いずれはバルコニーや門扉、フェンスなどにも展開したいと考えています。

今後もチャレンジャー精神を一層強め、持続的な成長を実現しながら「世界のリーディングカンパニー」への歩みを着実に進めてまいります。

※住宅：販売窓数ベース、ビル：受注窓数ベース



代表取締役社長

魚津彰

## <YKK AP環境経営方針>

### YKK AP環境経営方針（2025～2028年度）

環境価値創造による地球への貢献  
～カーボンニュートラル実現に向けて～

YKK APは、環境負荷低減と環境価値創出により、  
現在および将来世代の豊かな生活の実現と地球環境に貢献します。

- 脱炭素化・循環型社会実現に向けた技術開発・環境負荷低減に取り組みます。
- ライフサイクル全体で、気候変動、資源循環、水保全、生物多様性に取り組みます。
- 多様な人材を基盤とし、未来を見据えて新たな環境価値創出に取り組みます。

YKK AP環境政策委員長

YKK AP株式会社 代表取締役社長

魚津彰

# 環境戦略と指標

## ■ 環境戦略

YKK APは、ビジョン「Evolution 2030」において、「地球環境への貢献—脱炭素化・循環型社会実現に向けた仕組みづくり」を方針として掲げています。また、YKK APは2050年に目指す姿として「事業活動のライフサイクル全体を通じた“環境負荷ゼロ”の実現」を掲げ、この目標達成に向け、中期環境政策において具体的な指標を設定しています。

これらの指標は、YKKグループ全体で策定した「YKKグループ環境ビジョン2050」に基づいており、2025年度から2028年度までの中期環境政策において、「気候変動」「資源循環」「水保全」「生物多様性」という4つの主要な環境課題に関する目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいます。

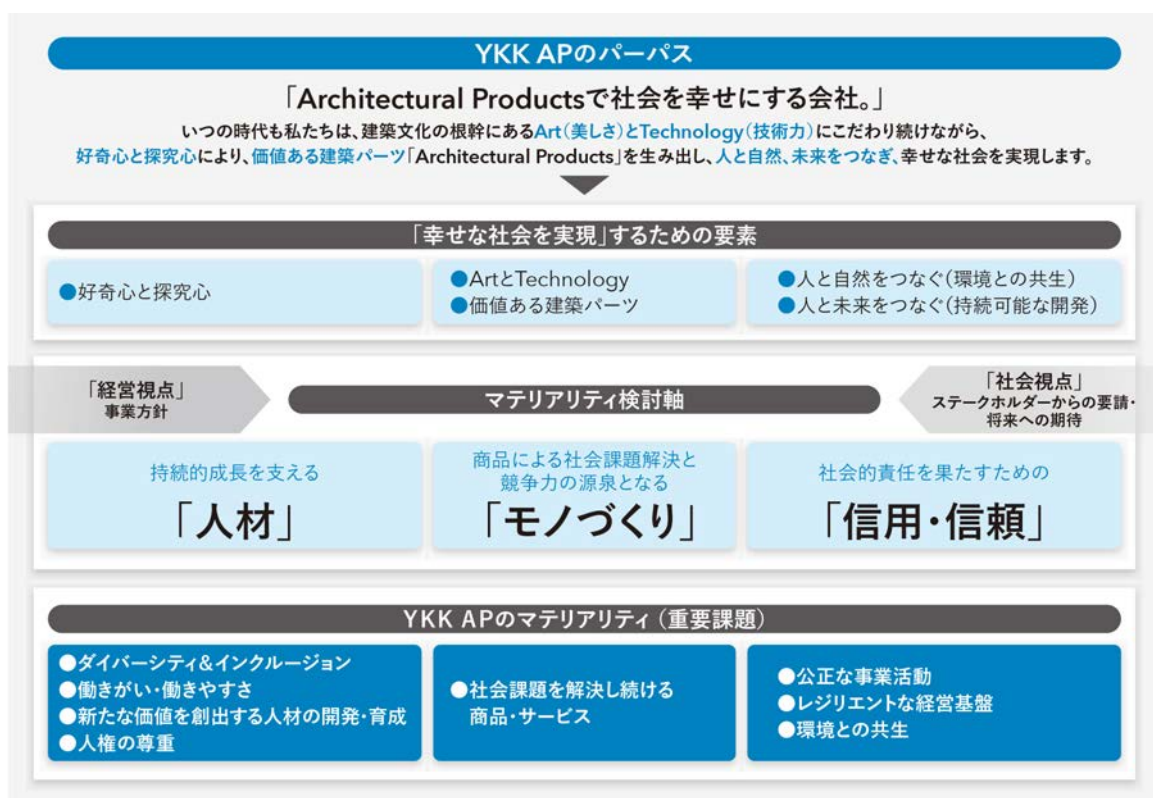
### ＜環境への取り組み経緯と2050年の目指す姿＞



## ■ YKK APのパーパスとマテリアリティ

YKK APの環境戦略は、パーパスおよびマテリアリティ（重要課題）と深く結びついています。

8つのマテリアリティ（重要課題）の1つとして、「環境との共生」を特定し、環境課題に対するKPIを設定しています。



## YKKグループ環境ビジョン2050

YKKグループ全体で更に高いレベルの環境経営を実現するため、環境への取り組みの長期的な方向性を示す「YKKグループ環境ビジョン2050」を策定しています。

「気候変動への対応」「資源の活用」「水の持続的利用」「自然との共生」という4つの項目それぞれに対して、2050年の将来予測と目指す姿を踏まえ、YKK APの環境政策における重要課題の抽出、特定と環境行動計画への反映を行っています。

## YKKグループ環境ビジョン2050

## 人と自然の未来をひらく

Towards a brighter future for nature and humanity



### 🌡️ 気候変動への対応

地球規模で起こっている気候の変動は、地球上に住むあらゆる生物にとって重要な問題となっています。この問題に対応することは社会の構成員としての責務であると考え、CO<sub>2</sub>をはじめとした温室効果ガスの削減や気候変動への適応に取り組みます。

### 💧 水の持続的利用

水は生命維持やあらゆる産業にとって欠かせない資源である一方、国や地域によって利用できる量や質が大きく変化します。社会との共存共栄を目指すわれわれにとって、地域と共に水資源を持続的に利用することは重要な課題であると考え、取水量の削減や排水の環境負荷低減等に取り組みます。

### ♻️ 資源の活用

ファスナーや窓をはじめとした商品を作るメーカーとして、その材料となる各種の資源は不可欠な存在です。将来世代にわたり、われわれの商品を安定して提供していくためにも、限りある資源を最大限有効に活用するとともに、ライフサイクルを通じて発生する廃棄物を資源とする活動に取り組みます。

### 🌿 自然との共生

大気の安定や水の浄化、食料の提供、レクリエーションの場など、自然は豊かな生活に欠かせない存在です。将来世代にわたり、豊かな生活を残すため、自然保護や環境負荷の低減等に取り組みます。

## 2025年度 YKK AP環境方針、行動計画

YKK APは、環境経営方針に基づき、ライフサイクル全体で環境価値を創出し、グローバルな環境負荷低減活動を実践することで、カーボンニュートラル実現を目指します。

環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境関連の法則制およびその他の要求事項を順守するとともに、以下の4つの環境課題について目標を設定し、達成に向けて行動します。

### 気候変動



温室効果ガス削減に寄与する商品や気候変動対策商品を積極的に開発・販売します。

さらに、事業活動やバリューチェーンにおけるカーボンニュートラル実現に向け、低炭素な原材料・燃料への転換、効率的なエネルギー利用、再生可能エネルギーの導入に取り組めます。

### 資源循環



原材料・包装資材の投入量削減と廃棄物排出量の最小化に向け、資源の効率的な利用と排出物の分別・回収・リサイクルに取り組めます。

### 水保全



持続的な水利用と水環境の保全に向け、水の循環利用と排水の環境負荷低減に取り組めます。

### 生物多様性



事業活動による生態系への影響を最小限に抑え、生物多様性を保全するとともに、地域社会と連携して自然環境の保護に取り組めます。

# 環境戦略と指標

## ■ 目標と実績

YKK APでは、2050年のあるべき姿と環境経営方針に基づき、中期毎に環境目標を設定しています。

第7次中期環境事業計画（2025年度～2028年度）では、2050年のあるべき姿に向けて、バックカスティングで2030年の目標、さらに2028年度に達成すべき中期到達目標を掲げ、そこから各年度の数値目標とアクションプランを設定し、取り組みを進めています。

## 環境政策の目指す姿と指標

2025年度計画は最新の計画を反映

| テーマ  |        | 指標                                                                  | 基準年度       | 対象                        | 2025年度計画      | 2028年度計画      | 2030年度目標      | 2050年度の目指す姿                               |
|------|--------|---------------------------------------------------------------------|------------|---------------------------|---------------|---------------|---------------|-------------------------------------------|
| 方針   |        | ・ 社会の長期目標： SDGs、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー<br>⇒ 「ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出」 |            |                           |               |               |               | 事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現          |
| 環境課題 | 気候変動 → | CO <sub>2</sub> 排出量<br>スコープ1+2<br>(千t-CO <sub>2</sub> )             | 2013<br>年度 | YKK APグループ<br>(国内+海外)     | 244<br>▲43%   | 149<br>▲65%   | 86<br>▲80%    | 商品、モノづくりにおける<br>ライフサイクルCO <sub>2</sub> ゼロ |
|      |        | CO <sub>2</sub> 排出量<br>スコープ3<br>(千t-CO <sub>2</sub> )               | 2013<br>年度 | YKK APグループ<br>(国内+海外)     | 1,975<br>▲21% | 1,838<br>▲26% | 1,746<br>▲30% |                                           |
|      | 資源循環 → | リサイクルアルミ<br>使用比率                                                    | -          | YKK APグループ<br>(国内 製造拠点)   | 60%           | 71%           | 100%          | 再生可能材料<br>(低炭素・循環型)<br>の利用                |
|      |        | 廃棄物排出量<br>(千t)                                                      | 2016<br>年度 | YKK APグループ<br>(国内+海外製造拠点) | 18.4<br>▲10%  | 14.7<br>▲28%  | 12.3<br>▲40%  |                                           |
|      | 水保全 →  | 水使用量<br>(百万m <sup>3</sup> )                                         | 2013<br>年度 | YKK APグループ<br>(国内+海外製造拠点) | 7.94<br>▲37%  | 7.60<br>▲40%  | 7.35<br>▲42%  | 水の最大限循環利用                                 |

2024年度総括

環境経営方針で掲げる4つの環境課題「気候変動」「資源循環」「水保全」「生物多様性」で数値目標を掲げ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みを推進しています。

2024年度は自社CO<sub>2</sub>排出量、水使用量など重点テーマで計画を達成しました。

一方、廃棄物削減については、生産量拡大によるガラス屑及び海外の廃棄物が増加し計画までは達しませんでした。

※達成度・・・ ◎：計画以上 ○：計画通り △：一部未達（＞90％） ×：未達

| テーマ          |         | 指標                            | 2024年度                                    |                                         |     |
|--------------|---------|-------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|-----|
|              |         |                               | 計画                                        | 実績                                      | 進捗度 |
| 環境コンプライアンス → |         | 公害・環境問題※2                     | 0件                                        | 0件                                      | ○   |
| 環境人材 →       |         | 環境教育受講率※1                     | 100％                                      | 100％                                    | ○   |
|              |         | SDGsアクション参加率※1                | 98％以上                                     | 夏：99％・冬：98％                             | ○   |
| 環境課題         | 気候変動 →  | 商品使用時のCO <sub>2</sub> 削減貢献量※1 | 1,012千t-CO <sub>2</sub><br>(2020年度比 216％) | 821千t-CO <sub>2</sub><br>(2020年度比 175％) | ×   |
|              |         | 自社CO <sub>2</sub> 排出量※2       | 275千t-CO <sub>2</sub><br>(2013年度比 ▲36％)   | 271千t-CO <sub>2</sub><br>(2013年度比 ▲37％) | ○   |
|              |         | エネルギー原単位※1                    | 前年度比 ▲4.3％                                | 前年度比 ▲1.1％                              | △   |
|              | 資源循環 →  | 廃棄物排出量※3                      | 17.0千t<br>(2016年度比 ▲17％)                  | 18.7千t<br>(2016年度比 ▲9％)                 | ×   |
|              |         | 廃棄物原単位※3                      | 2016年度比 ▲48％                              | 2016年度比 ▲33％                            | ×   |
|              |         | 廃棄物リサイクル率※3                   | 99％                                       | 98％                                     | △   |
|              | 水保全 →   | 水使用量※3                        | 8.2百万m <sup>3</sup><br>(2013年度比 ▲35％)     | 8.1百万m <sup>3</sup><br>(2013年度比 ▲35％)   | ○   |
|              |         | 水原単位※3                        | 2013年度比 ▲55％                              | 2013年度比 ▲54％                            | △   |
|              | 生物多様性 → | 社会貢献件数※2                      | 各拠点2件以上                                   | 計217件                                   | ○   |

※1 YKK APグループ（国内）

※2 YKK APグループ（国内+海外）

※3 YKK APグループ（国内+海外製造拠点）

2025年度の数値目標とアクションプラン

| テーマ          |         | 指標            | 2025年度 環境活動計画                          |                                          |
|--------------|---------|---------------|----------------------------------------|------------------------------------------|
|              |         |               | 計画                                     | アクションプラン                                 |
| 環境コンプライアンス → |         | 公害・環境問題※2     | 0件                                     | ISO14001の拡大、運用管理強化                       |
| 環境人材 →       |         | 環境教育受講率※1     | 100%                                   | 次代を担う環境人材の育成と<br>全員参加の環境活動               |
|              |         | 環境アクション参加率※1  | 98%以上                                  |                                          |
| 環境課題         | 気候変動 →  | 商品のCO2削減貢献量※2 | 954千t-CO2<br>(2020年度比 199%)            | 温室効果ガス削減に寄与する商品の開発・販売                    |
|              |         | 自社CO2排出量※2    | 244千t-CO2<br>(2013年度比 ▲43%)            | カーボンニュートラル技術開発<br>(省エネ・プロセス転換・創エネ・物流・材料) |
|              |         | エネルギー原単位※1    | 前年度比 ▲1.3%                             |                                          |
|              | 資源循環 →  | 廃棄物排出量※3      | 18.4千t<br>(2016年度比 ▲10%)               | RPF製造・破砕機導入による廃棄物の有価物化                   |
|              |         | 廃棄物原単位※3      | 2016年度比 ▲37%                           |                                          |
|              |         | 廃棄物リサイクル率※3   | 98%                                    |                                          |
|              | 水保全 →   | 水使用量※3        | 7.94百万m <sup>3</sup><br>(2013年度比 ▲37%) | 水の循環利用推進                                 |
|              |         | 水原単位※3        | 2013年度比 ▲56%                           |                                          |
|              | 生物多様性 → | 社会貢献件数※2      | 各拠点2件以上                                | 地域・自然と共生する環境保全活動                         |

※1 YKK APグループ (国内)  
※2 YKK APグループ (国内+海外)  
※3 YKK APグループ (国内+海外製造拠点)

# 環境戦略と指標

## ■ イニシアチブへの賛同・加盟

YKK APでは国際的なイニシアチブに賛同・加盟し、国際基準に基づいた目標・実績管理に取り組んでいます。

|                                                                                                                    |                                        |                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------|
|  水循環<br>認 証<br>ACTIVE             | 水循環ACTIVE企業認証を取得                       | 2024年10月             |
|  サークュラーパートナーズ                     |                                        | 2024年2月              |
|  JCLP                             | 日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）」への加盟          | 2023年5月              |
|  ECO<br>FIRST                     | エコ・ファースト認定を取得 →                        | 2023年4月              |
|  GX<br>League                    | GXリーグへの参画                              | 2023年4月              |
|  J4CE                           | 循環経済パートナーシップ（J4CE）への参加                 | 2022年10月             |
|  JAPAN<br>CLIMATE<br>INITIATIVE | 気候変動イニシアティブへの賛同                        | 2022年6月              |
|  WE SUPPORT<br>GLOBAL COMPACT   | 国連グローバルコンパクトへの署名                       | 2021年5月              |
|  TCFD                           | TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言への賛同 →       | 2019年5月              |
|  SCIENCE<br>BASED<br>TARGETS    | SBT（Science based Targets）イニシアチブの認定を取得 | 2019年1月<br>2021年2月更新 |

# 環境戦略と指標

## ■ 環境に関する社会的評価

### YKK APアメリカ社が「ENERGFACADE ®」を通じ環境問題改善への貢献で表彰

YKK APアメリカ社の環境配慮型製品の商標「ENERGFACADE ®」が、環境問題の改善に貢献したとして、2024年12月3日に米国特許商標庁主催の「Trademarks for Humanity Award」を受賞しました。

YKK APアメリカ社は遮熱性、断熱性、通気性に優れた商品開発に加え、製造から流通までのCO<sub>2</sub>排出量削減に注力。2010年に商標登録された「ENERGFACADE ®」は、環境配慮型製品のサブブランドとして、エントランス、ストアフロント、カーテンウォール、バルコニードアなど多様なラインアップを展開しています。エネルギー効率の高い建材の提供と、全社的な環境問題への積極的な姿勢が今回の受賞につながりました。



### 「水循環企業登録・認証制度」の「水循環ACTIVE企業」に認証

YKK APは、内閣官房「水循環企業登録・認証制度」において、「水循環ACTIVE企業」に認証されました。同制度は、水循環に貢献する取り組みを行う企業を登録・認証。YKK APは、水量や水質など直接的に水循環に貢献する「水量水質」と、人材や資金、機械などを介して間接的に水循環に貢献する「人材資金」の両カテゴリーで認証を取得しました。

YKK APでは事業活動における節水や、地域規制より厳しい自主排水基準の設定、国内外の拠点での河川清掃活動などを行っています。水資源の豊かな地域で事業を行う企業として、今後も水資源保全をはじめとする環境負荷低減と持続可能な社会への貢献をめざしていきます。



### AP中国社に「国家級グリーン工場」の証書が授与

YKK AP中国社は2024年5月、中国政府より「国家級グリーン工場」の証書を交付されました。同制度は環境に配慮した製造モデル推進を目的に、環境負荷軽減と経済的成長の両立をめざすモデル企業に対して認証を行っているもので、「国家級」は最上位の等級です。YKK AP中国社では製造現場や設備の省エネ化、太陽光発電の設置などによるエネルギーの低炭素化などを進めており、これらの取り組みが評価されました。今後も環境負荷低減に向けた活動を推進していきます。



# 環境戦略と指標

## ■ 「エコ・ファーストの約束」と進捗状況

YKK APは、2023年4月5日、環境省が環境の分野において「先進的、独自のでかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業（業界における環境先進企業）であることを認定する「エコ・ファースト企業制度」において、「エコ・ファースト企業」に認定されました。

YKK APは、2050年の目指す姿として「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」を掲げています。その実現に向け、ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出するとともに、グローバルな環境負荷低減活動を実践しています。特に、「気候変動」「資源循環」「水保全」「生物多様性」の4つの環境課題について目標を設定し、その達成に向けた取り組みを推進しており、こうした取り組みを「エコ・ファーストの約束」として宣言しました。

### YKK APの「エコ・ファーストの約束」 [詳細はこちら](#)

- 01. 2050年カーボンニュートラルに向け、事業活動の全工程で温室効果ガス削減や気候変動への適応に取り組む
- 02. 商品のライフサイクルを通じ廃棄物発生を抑制するべく、サーキュラーエコノミーの概念を取り入れ持続可能な資源の利用を進める
- 03. 自然との共生に向け、事業活動に伴う大気への排出物質の抑制・持続的な水利用の実現に取り組む
- 04. 事業活動の中で、生物多様性へプラスとなる取り組みを進めるとともにマイナスとなる影響を可能な限り小さくすることで、持続可能な社会づくりへ貢献する
- 05. さまざまな環境教育や意識啓発を通じ、次代を担う環境人材の育成に取り組む
- 06. 「商品」と「モノづくり」を通じ持続可能な社会づくりに貢献すべく地球環境負荷低減に関わる取り組みに対し、積極的な投資を進める
- 07. トップマネジメントによるグローバルな環境経営の強化に取り組む



## 「エコ・ファーストの約束」進捗状況

※ 「エコ・ファーストの約束」に掲げている目標値は認定時に策定したものであり、ここではその進捗を公開しています。  
<達成度> ◎：計画以上   ○：計画通り   △：一部未達（>90%）   ×：未達   ー：定性目標のため対象外

| 約束内容 |                                                                                                 | 2024年度計画      | 2024年度実績      | 達成度 | 取り組みの詳細                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|-----|-----------------------------------------|
| 約束1  | 家庭・オフィスビル等の民生部門における高断熱窓の普及によるCO <sub>2</sub> 削減貢献量を、2024年度までに2020年度比1.5倍（149%）※ <sup>1</sup>    | 2020年度比 216%  | 2020年度比 175%  | ◎   | 気候変動 →<br>TCFDに基づく情報<br>開示 →<br>目標と実績 → |
|      | 事業活動による自社からのCO <sub>2</sub> 排出量（スコープ1+2）を2030年度までに2013年度比50%削減、温室効果ガス排出量2050年実質ゼロ※ <sup>3</sup> | 2013年度比 36%削減 | 2013年度比 37%削減 | ○   |                                         |
|      | サプライチェーンCO <sub>2</sub> 排出量（スコープ3）を2030年度までに2013年度比30%削減※ <sup>3</sup>                          | 2013年度比 20%削減 | 2013年度比 19%削減 | △   |                                         |

|     |                                                        |                                  |                                          |   |                                  |
|-----|--------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|---|----------------------------------|
| 約束2 | 樹脂窓の製造工程で発生する端材について、<br>2028年度までに、社内リサイクル率100%<br>達成※2 | 2024年度末 100%                     | 2024年度末 67%                              | × | 資源循環 →                           |
|     | 2024年度までに、廃棄物排出量32%削減※4                                | 2016年度比 17%削減                    | 2016年度比 9%削減                             | × |                                  |
|     | 2024年度までに、国内・海外製造拠点のリ<br>サイクル率99%以上達成※4                | 99%                              | 98%                                      | △ |                                  |
| 約束3 | 水使用量を2024年度までに、<br>2021年度比24%削減※4                      | 2021年度比 16%削減<br>(2013年度比 35%削減) | 2021年度比 17%削減<br>(2013年度比 35%削減)         | △ | 水保全 →                            |
| 約束4 | 2024年度までに、材料、部材、部品の<br>六価クロムフリー化100%達成※1               | —                                | サプライヤーへのヒア<br>リングの実施<br>品質試験の実施          | — | グローバルな環境経<br>営度向上 →              |
|     | 国内・海外の全拠点において、環境保全活動<br>を年間2件以上実施※3                    | 各拠点2件以上                          | 各拠点2件以上<br>(計217件)                       | ○ | 生物多様性 →                          |
| 約束5 | 従業員への環境自覚教育、<br>全員参加型環境アクション※1                         | 環境教育受講率100%<br>環境アクション参加率<br>98% | 環境教育受講率100%<br>環境アクション参加率<br>夏：99%/冬：98% | ○ | 環境人材 →                           |
|     | 子どもたちへの環境教育やボランティア活動<br>※3                             | —                                | 次世代教育支援<br>16件                           | ○ | 生物多様性 →                          |
| 約束6 | 地球環境負荷低減に関わる取り組みに対する<br>積極的な投資※1                       | —                                | 1,965百万円                                 | — | ＜サステナビリティ<br>データブック＞環境<br>会計結果 → |
| 約束7 | トップマネジメントによるグローバルな<br>環境経営の強化※3                        | 公害・環境問題0件                        | 公害・環境問題0件                                | ○ | グローバルな環境経<br>営度向上 →              |

※1：YKK APグループ（国内）

※2：YKK APグループ（国内製造拠点）

※3：YKK APグループ（国内+海外）

※4：YKK APグループ（国内+海外製造拠点）